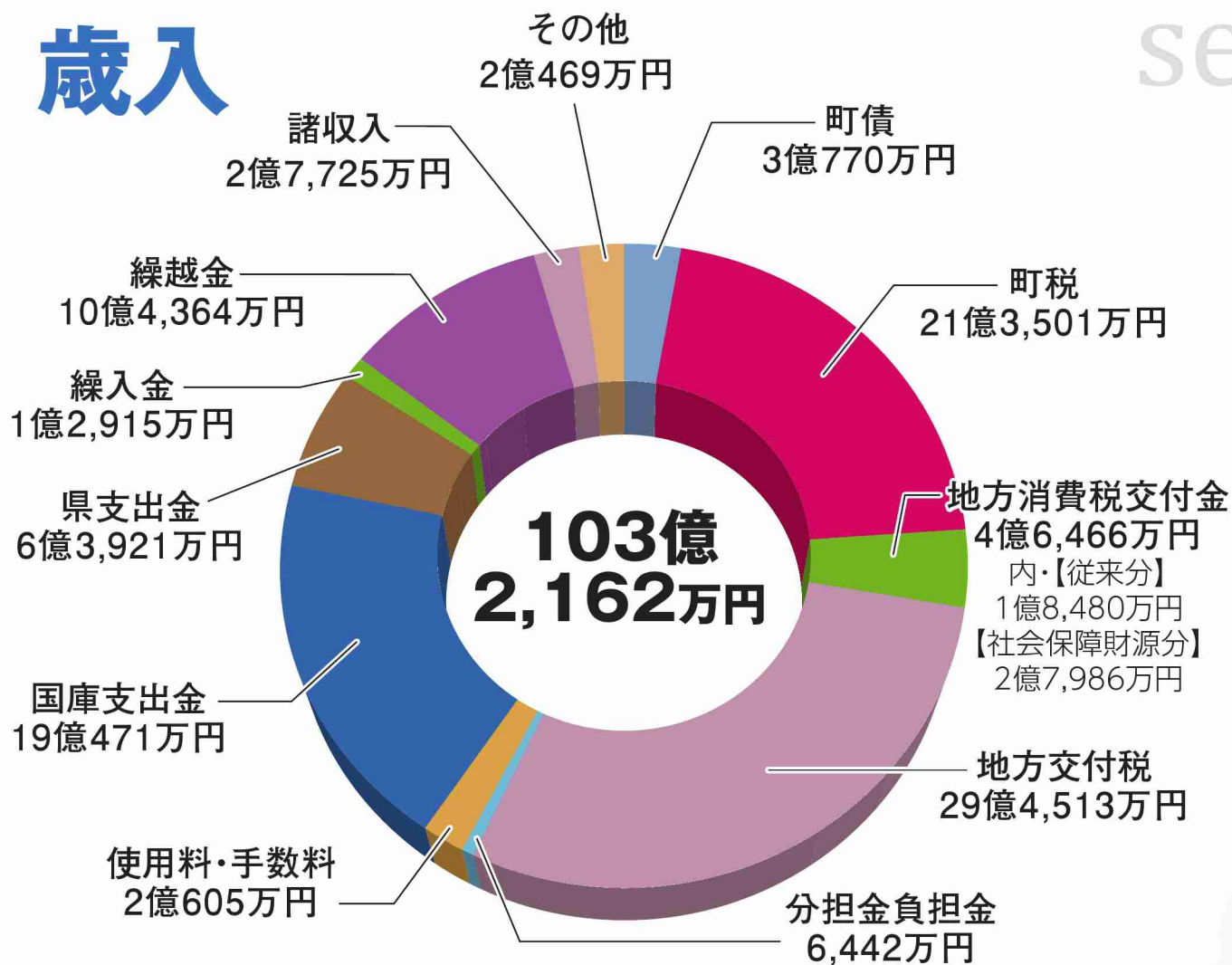


歳入



町税のうち、都市計画税は都市計画事業の費用に充てるために課税する税で、入湯税とともに目的税と呼ばれます。三郷町では、都市計画税は下水道整備事業に、入湯税は観光振興事業に活用しています。

settlement 令和4年度

決算報告

今回、報告する一般会計の令和4年度の歳入総額は103億2,162万円、歳出総額は93億8,838万円で、翌年度に繰り越す財源を差し引いた実質収支額は8億5,827万円の黒字決算となりました。



基金

基金は法律や条例に基づいて設置し、財政に余裕がある時は積み立て、臨時の出費や財源不足が見込まれる場合に切り崩して事業費に充てます。

基金の現在高	令和3年度現在高	令和4年度末現在高
財政調整基金	12億 5,031万円	12億 6,006万円
減債基金	1億 5,818万円	1億 5,919万円
公共施設整備等基金	2億 8,681万円	3億 8,688万円
その他基金	7億 9,960万円	8億 261万円
合計	24億 9,490万円	26億 874万円

町の財政状況

三郷町は財政再生基準（行政運営に国や県の関与や勧告を受ける基準）や早期健全化基準（財政状況が悪化しつつあり、早期に改善が必要な基準）のいずれの基準値にも該当する状況にいたっていません。

健全化判断項目	令和4年度比率	早期健全化基準	財政再生基準
①実質赤字比率	—	14.79%	20.0%
②連結実質赤字比率	—	19.79%	30.0%
③実質公債費比率	3.2% (3カ年平均)	25.0%	35.0%
④将来負担比率	50.6%	350.0%	—

町の会計は大きくわけて一般会計と特別会計、そして企業会計に分類されています。一般会計は町の仕事の中心部分を賄う会計、特別会計は特定の資金運用や事業を行っている会計、企業会計は独立採算で運営を行っている会計です。

— 主な事業の成果 —

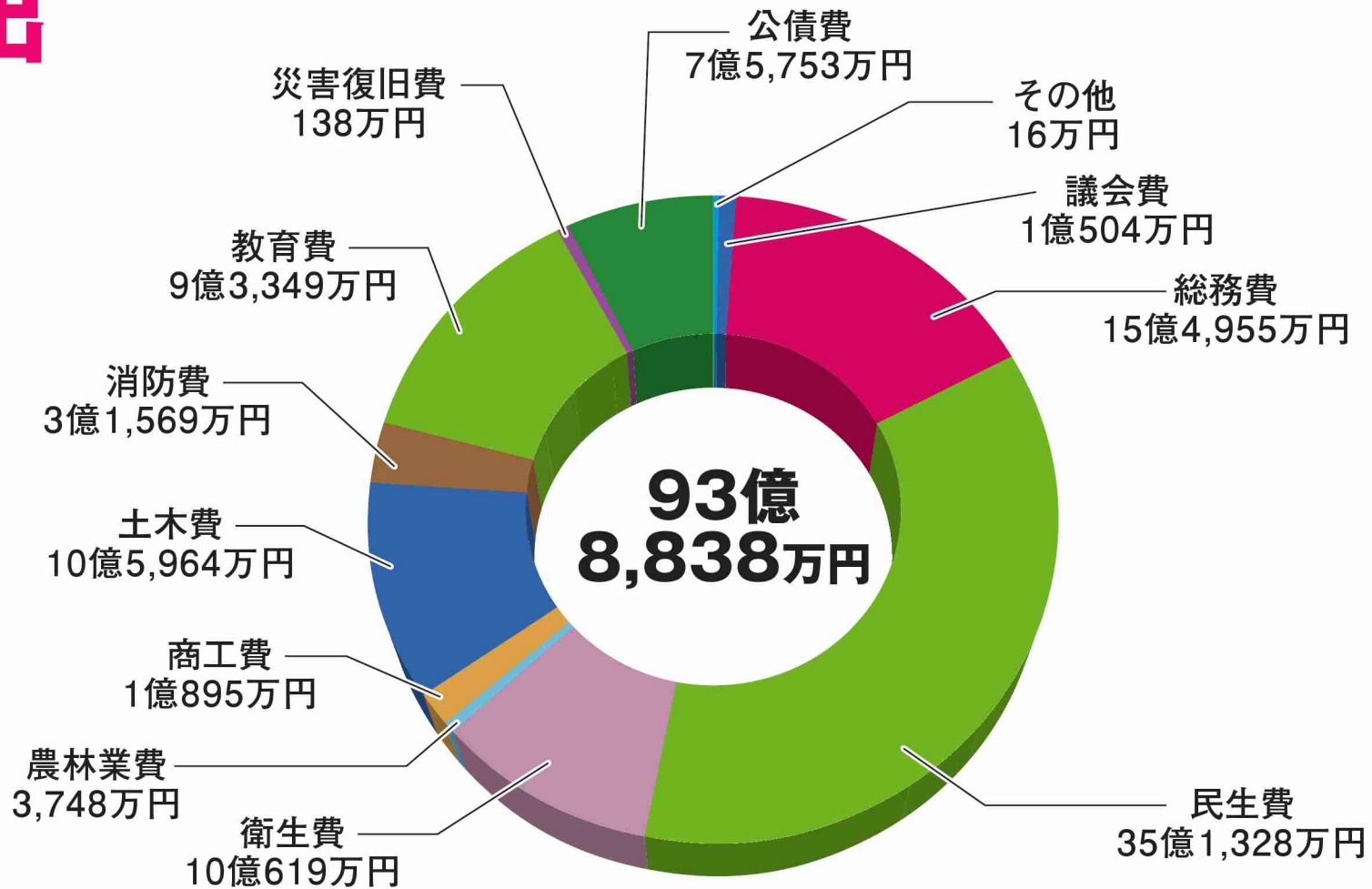
令和4年度では「SDGs 未来都市」として進むために、6つの大きな事業を中心にさまざまな施策に取り組みました。

● **災害に強く、成長するまちづくり**
これまで何度も浸水被害に見舞われてきた惣持寺地区に内水対策として地下式の調整池の整備を始まりました。また、大和川の治水対策で浚渫工事が始まり、この工事が出る土砂を利用して、信貴山のどか村に地域防災拠点・広域避難所の整備に取り組んでいます。

● **FSS 35 キャンパスの創設**

SDGsの理念でもある「誰一人取り残さない」、インクルーシブシティを目指してFSS 35 キャンパスを奈良学園大学跡地に創設。サテライトオフィス・スポーツパークの整備を行いました。また、本年10月から日本語学校の開校にむけて、官民連携での整備に取り組んでいます。

歳出



特別会計

会計名	歳入	歳出	実質収支額
住宅新築資金等貸付事業	1,478万円	2億617万円	△1億9,139万円 ※翌年度繰上充用金をもって補てんしました。
し尿浄化槽管理	141万円	135万円	6万円
国民健康保険	24億3,818万円	23億9,775万円	4,043万円
介護保険事業	22億1,693万円	21億5,638万円	6,055万円
後期高齢者医療	4億3,159万円	4億3,153万円	6万円

※繰上充用金とは、会計年度経過後に歳入が歳出に不足するとき、翌年度の歳入を繰り上げてこれに充てること

企業会計

下水道事業会計	収益的収入		収益的支出		差引
	営業収益	2億4,263万円	営業費用	5億2,218万円	
営業外収益	4億1,695万円	営業外費用	5,600万円		
特別利益	0円	特別損失	0円		
	6億5,958万円		5億7,818万円	8,140万円	
	資本的収入		資本的支出	差引	
	1億7,935万円		3億5,326万円	△1億7,391万円	

水道事業会計	収益的収入		収益的支出		差引
	営業収益	5億1,458万円	営業費用	7億1,318万円	
営業外収益	1億4,586万円	営業外費用	2,292万円		
特別利益	1万円	特別損失	26万円		
	6億6,045万円		7億3,636万円	△7,591万円	
	資本的収入		資本的支出	差引	
	2億230万円		2億4,152万円	△3,922万円	

資本的収入額が資本的支出額に不足する額1億7,391万円は、当年度損益勘定留保資金、減債積立金で補てんしました。

資本的収入額が資本的支出額に不足する額3,922万円は減債積立金、過年度損益勘定留保資金で補てんしました。

●デジタル技術による見守り
近年の社会問題をデジタル技術を使って解決するべく、昨今の子どもたちが巻き込まれる事件や事故の多さから、こどもたちの安全を守るための見守りビーコンシステムの導入に取り組み、本年4月より稼働しました。

また、このシステムは高齢者の方の見守り活動にも利用されています。

●アフターコロナに向け
長引くコロナ禍の中、住民や事業者の皆さんの生活と地域経済を守るため、地方創生臨時交付金を活用した、町独自の支援策を行いました。(令和4年9月号に掲載しています)

インクルーシブ・スマートシティさんごうを目指し
三郷町はSDGs未来都市としてICT・IoT技術によるまちづくりを行うとともに、心のこもった人と人をつなぐインクルーシブなまちづくりを進めています。この両者を融合した『インクルーシブ・スマートシティさんごう』を官民連携のもと、地域の課題解決や活性化を図り、地方創生に取り組んできました。また、昨年は環境省から脱炭素先行地域に奈良県で初めて選ばれるなど、更なる事業に向けて基盤となる1年となりました。